

第 35 回災害対策委員会 議事録

活動日時；令和 3 年 9 月 1 日（水）、2 日（木）9：00～17：00

一般社団法人 群馬県臨床工学技士会 災害対策委員会

委員長 山根 雅樹

委員：宮崎 郁英、橋本 和哉

○訓練概要

1. 訓練日時

2021 年 9 月 1 日（水）9 時から 9 月 2 日（木）17 時

2. 訓練本部

茨城県臨床工学技士会

3. 訓練対象

群馬県・栃木県・神奈川県・埼玉県・東京都・千葉県・茨城県

4. 訓練の概要と特徴

被害想定は、台風の被害により茨城県内で停電が広範囲に発生。

県内の浄水場が機能ダウンし、広域に断水となったため茨城県が他県に応援を要請。

今回の訓練の特徴として、普段、送迎サービスを利用している患者は紹介先で入院扱いとしてもらう。このため、依頼患者数を外来と入院に分けて集計する。患者数の調整に戸惑うことも予想されるので、搬送方法については訓練に含めないこととする。また、訓練終了後に振り返りの会議（WEB）を行う。

*群馬県では入院に関する依頼については取り扱わない
（今回は行政との調整がつけられないため）

5. 情報伝達ツール

県同士の連絡はメーリングリストを使用。

各県で県内の伝達ツールはその県ごとの判断とする。

患者の依頼等には「情報入力シート」を使用する。

6. 訓練の流れ

9月1日

9:00 訓練開始

茨臨工災害対策本部は、県内の各施設へ災害情報ネットワークに登録するよう指示する。他施設への依頼患者数は、外来と入院（送迎サービスを利用している患者）に分けて登録する。

災害対策本部は各都県に対し、茨城県が被災し甚大な被害が発生している模様なので、各都県に患者を依頼する方向で動いていることを各災害対応担当者にメールにて連絡する。その際、普段送迎サービスを利用している患者は通院困難のため入院透析となる旨も連絡する。

9:00～18:00

茨城県内の各施設は、被災状況と依頼患者数を災害情報ネットワークに登録し、普段送迎サービスを利用している外来患者は、入院透析とする。災害対策本部は、外来と入院に分けて集計する。（情報入力シートを使用）各都県は、外来で受入れ可能な患者数と入院で受け入れ可能な患者数を分けて把握し整理する。

9月2日

9:00 訓練開始

茨城県から各都県への依頼患者数を外来と入院に分けてメールにて連絡する。

各都県は 15 時までに施設ごとの受け入れ患者数（外来と入院を分ける）を 2 日と 3 日に分けて茨城県へメールする。

15:00～

各都県の受け入れ患者数が依頼数を下回る場合は、災害対策本部が各都県と調整する。

17:00 訓練を終了

20:00 訓練を振り返り会議（WEB）

群馬県での実施内容

1)透析医療機関への訓練の周知方法

- ①訓練 10 日前に県医務課よりお知らせを各施設へメールで送信（県医務課及び日本透析医学会県支部と技士会の連名で）
- ②訓練 2 日前に FAX で参加を促した。
- ③当日は災害時情ネットワークを確認し、14 時の時点で受け入れ入力が無い施設には可能な範囲で FAX を使用して催促した。

2)入力方法

日本透析医学会災害時情報ネットワークへ受け入れ可能日、人数を入力する

3)対象施設数

65 施設

4)入力施設数

53 施設

5)入力率

82%

6)受け入れ可能施設数・人数

42 施設、221 名/日

7)訓練シナリオへのご意見

千葉県では台風の被害で実際に対応された経験があるので、その時の経緯を参考に次回はシナリオを検討してみてはどうか。

8)反省点ほか

- ①今回第 5 波の真っ只中で各施設の協力が得られにくい状況であったこと、災害対策委員に新しいメンバーが居たこと、県が直前まで訓練についての後援許可を出せなかったこともあり、今回はネットワークへ入力のみを依頼する形へ変更した。
- ②あらかじめ考えておいた宿泊に関するシナリオは県の防災課の協力が必要だったが直前

まで県の協力が得られるか確証が無かったので今回は見合わせた。

- ③ 昨年は電話での催促により登録率は 92% となったが、相手方の都合がわからず、タイミングが悪い場面もあったので、今回は可能な範囲での FAX での催促とした。

8) 今後の課題など

- ① コロナ禍の状況で本当に他施設の患者を受けられるのか？
現実的には治療の必要性を考えると受け入れが優先になると思われる。
- ② コロナ禍という状況を想定した訓練方法を検討すべきか。
(施設へ入る前に PCR 検査を施行するとか)

2. その他

- ① 3 日間の受け入れ可能数は 9/1 日(水)262 名、9/2(木)309 名、9/3(金)273 名であった。
- ② 群馬県の訓練本部については、三密を避けるため本部には集まらず、それぞれの職場や出先などから対応した。スマートフォンや PC 環境があれば問題なく対応可能であると感じた。
- ③ 入院というシナリオを作っていたがそれに応じられなかったのが残念であった。実際に多数の入院を受け入れるのは他の疾患の人も居て難しいと考えており、行政と連携して県の施設などに一時的に受け入れてもらうほうが現実的と感じた。今後県内の訓練で宿泊のシナリオを考えて実施してみたい。

* 参加者：山根雅樹、宮崎郁英、橋本和哉

期間：9 月 1 日～2 日

訓練による活動費として（日当として 1 人当たり 8 時間（2 日間で）として

@5 千円×3 名=15,000 円

以上